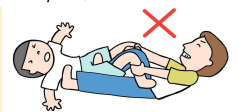


これって大丈夫？③ ～あなたの体は誰のもの～

これはやめて！

✕ 大人がこどもの体のプライベートゾーン(※)に対していたずらをする事。



✕ くすぐり遊びや、「たかいたかい」をする時、こどもから「やめて」と言われても、やり続けること。



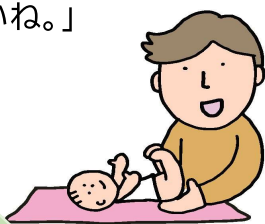
つい冗談のつもりでしていることの中に、不適切なことはないでしょうか。「みんなもしている。」「こどもも喜んでいる。」「自分もされて育った。」などは、やってよい理由にはなりません。

※プライベートゾーンは、『水着や下着を着て隠れるところと口』というように伝えると、こどもにも分かりやすいです。「自分のプライベートゾーンは大切なもの。」「人のプライベートゾーンも勝手に見たりさわったりしない。」と丁寧に伝えていくことで、自分の体も人の体も尊重し大切にする気持ちが育ちます。



こどもの体にさわるときには声をかけて！

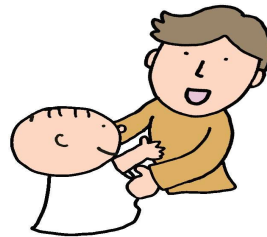
「きれいにしようね。」
「きもちいいね。」



「仕上げふきをしようね。」



「着替えようね。」



おむつ替えの際の声かけは、赤ちゃんの情緒の安定につながります。同時に「プライベートゾーンに触られるときは声をかけられる。」という習慣が、赤ちゃんの頃から身につきます。

いつも声をかけられて介助されていると、逆に「必要のないときには、プライベートゾーンを見られたり触られたりしない。」という理解につながります。

日本は、他人と一緒に風呂に入る「銭湯」の文化がある国です。家族以外の人々の裸を見たり、背中を流しあったりすることを多く経験された世代と、そのような経験が少ない世代とでは、プライベートゾーンについての認識にも差があると思います。まずは、大人が正しく知る必要があります。

「さわられても仕方がない。」「イヤと言っても、やめてもらえない。」「裸でふざけたら、大人が喜んでくれる。」「プライベートゾーンへのからかいは愛情表現。」などの感覚が定着してしまうと、万が一にもこどもに不利益なことが起こった場面で、自分の身を守れなくなる可能性があります。

身近な大人がこどもの体を尊重し、生活の中で日頃から「あなたの体はあなただけの大切なもの」と、言葉や態度で伝えていくことが、重要です。

